Ⅳ　施策の道筋

１．快適にはしる

歩行者、自転車、自動車の分離を基本としつつ、「車道を通行する自転車」の安全性の向上の観点から、沿道地域、道路管理者、交通管理者が調整・連携しながら、安全な走行空間の整備を進めていきます。

道路幅員の狭い区道などでは、構造的な分離が難しいため、路面標示による自転車専用通行帯（自転車レーン）やピクトグラム（自転車マークなど）による走行空間の整備や、必要に応じた自動車の交通規制（一方通行化など）、一定のエリアを対象としたゾーン３０（※２）などの交通安全対策を推進します。

図　自転車ネットワークのイメージ

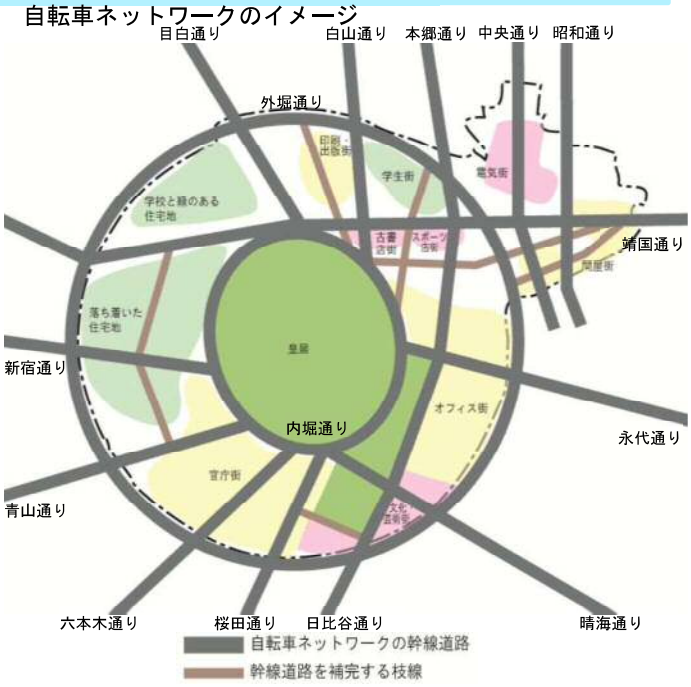
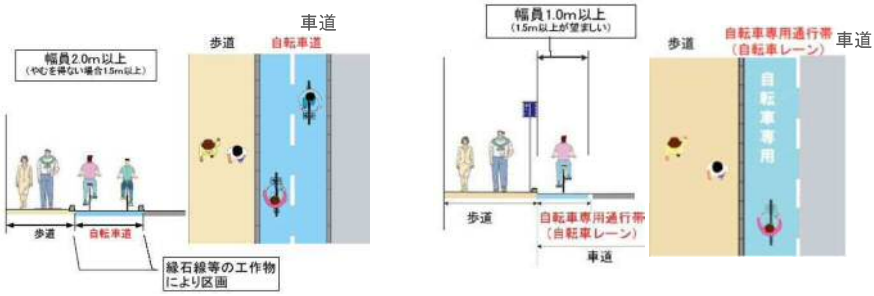
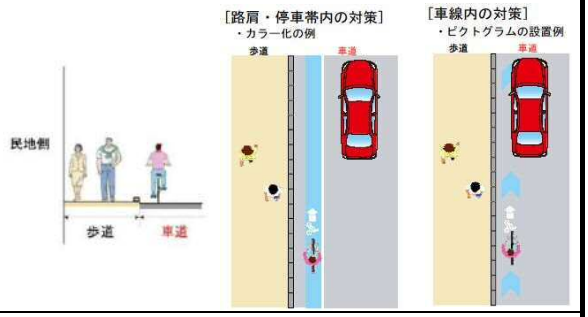
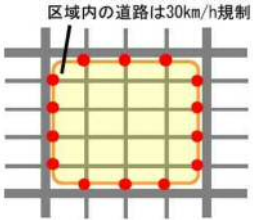


表　自転車走行空間整備の基本的なイメージ

ﾈｯﾄﾜｰｸ	対象路線	整備形態の例
自転車ネットワークの幹線道路	国道、都道	自転車道※１　自転車専用通行帯（自転車レーン）※１ 
幹線道路を補完する枝線	主に広幅員区道（歩道のある広い区道）	
	駅や主要な公共施設、商業・業務集積地を結ぶ区道（歩道のある狭い区道）	自転車通行位置の路面標示※１ 
身近な自転車利用の路線	駅や公共施設、身近な商業施設・商店街などを結ぶ区道（歩道のない区道）	自転車通行位置の路面標示※１ 自動車の走行速度の抑制など（ゾーン 30 の指定）※2 

※ 1　出典：安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成24 年11 月、国土交通省道路局、警察庁交通局）

※ 2　ゾーン 30 とは、区域内での車の速度を 30km 以下に規制し、路面標示などの工夫と併せた交通安全対策です。